

森林工芸館の

あれこれ

no.43
10
2023

森林工芸館のあれこれ no.43 では
現在開催中の企画展

【オケクラフトの成分表 ヒト×モノ×コト
に関連して

オケクラフトの生みの親である

秋岡芳夫さんの構成要素ともいえる

父 秋岡梧郎さんについて

そして 梧郎さんと芳夫さんとの共通項

置戸との関係をご紹介します

秋岡さんの背景を知ること

見えてくるものに変化があるかもしれません

秋岡芳夫さん
と父・梧郎さん

秋岡芳夫さん初来町の背景にあった
父梧郎さんと置戸との不思議な関係
背景を知ること繋がる
父と子共通の思いを感じとることができます



人と、木と、おけと



秋岡芳夫さんと父 梧郎さんと置戸

秋岡芳夫さんの父である梧郎さんは、日本の近代図書館の先駆者として知られています。1921 年に創設された日本で初めての図書館学校 - 文部省図書館員教習所の 1 期生であり、修了者名簿の筆頭として常に名前があがってきます。

梧郎さんの革新、変革の精神は真骨頂といえ、生涯その姿勢が変わることはありませんでした。図書館教育などの図書館理論や現在では当たり前となった「開架式」、「無記名式貸出券」などの実践から「図書館のエジソン」と呼ばれ、今日における図書館のあり方に大きな影響を及ぼしました。また、息子である芳夫さんと相通じる部分として、梧郎さん自身が創意工夫、発明の人だったことがあげられます。

芳夫さんが 1983 年に初めて置戸へ来町、講演を実施した背景には、この梧郎さんの後押しがあったとも言われています。当時、図書貸出率全国一位として知られた置戸について、「あの町は住民一人あたりの図書貸出率全国一位だから、文化も人材もあるはずだ。応援してやってくれ。」と、芳夫さんが梧郎さんから受けた言葉を、後年関係者に伝えていきます。

秋岡芳夫さんと梧郎さんに共通する考えとは

父・梧郎さんの図書館人としての理論と実践が、芳夫さんにも大きな影響を与えたと考えられます。影響として考えられる 3 点として、

- 1) 「図書館は文化であり、文化はその国の伝統と社会環境から生まれる」
「図書館教育は図書を通じて一般社会人の価値に向える発展を助成する作用であって、人々の資質と社会文化の発展を目的とする」
という、図書館の教育的使命と文化伝承・発展の役割。
- 2) 「図書館利用者は直接本を手にとって選択しなければならない」
など、常に利用者の立場から図書館運営を考え、開架式、無記名式貸出券などの画期的な実践。
- 3) 中小商工業者の調査機関として、また、実務上の便益に資するために「実業図書室」の新設。(参照『秋岡梧郎著作集』～日本図書館協会)

上記のように、父・梧郎さんの理論と実践に、芳夫さんの文化の伝統・発展、コミュニティ生産、モノの図書館構想の考え方への共通性が垣間見られます。

芳夫さんが置戸への関わりを受諾した背景には、父・梧郎さんの図書館教育への思いを感じ取っていたのではないかと考えられます。

秋岡 梧郎さん (1895-1982) 略歴

熊本県下益城郡豊福村大字竹崎にて出生

1919 年 熊本県下益城郡教育会明治
文庫司書となる

1920 年 長男・芳夫さん誕生

1921 年 文部省図書館員教習所入所

1922 年 同教習所修了

東京市立日比谷図書館勤務

⇒図書館改革運動を起こしたが成功せず

東京市立麻布図書館で安全接架式（開架式）を導入

1923 年 関東大震災⇒被災図書館の復旧に携わる（～1925 年）

1924 年 市立両国図書館主任転勤…安全接架式として開館

1925 年 市立京橋図書館主任に命ぜられ、京橋、深川、駿河台の復旧計画に携わる

1940 年 日本図書館協会理事就任（戦後まで続く）

1944-45 年 民間重要文書の買上げ疎開事業を開始し、戦禍から文化財を保護することに挺身した

1952 年 学校図書館研究所開設（目黒区中目黒の自宅）

1959 年 日本図書館協会顧問に推挙

1982 年 邸内に私設図書館開設 / 「学生カナ筆記法」刊行
10 月 20 日 87 歳で逝去



秋岡梧郎さん関連図書（どま所蔵）



学生カナ筆記法
秋岡梧郎著

1982 年の刊行された
梧郎さんの著書。
⇒梧郎さんがかねてより懸案していたカナ文字についてまとめられた書籍。



秋岡梧郎著作集
図書館理念と実践の軌跡

1988 年に発行された
書籍。
⇒梧郎さんの著作物をまとめるとともに、関係者からの寄稿及び解説が掲載されている。